

第2回 塩竈市長期総合計画審議会 議事録（要旨）

日 時 令和8年3月19日（木） 18:30～20:30

場 所 塩竈市魚市場 中央棟2階 大会議室

出席委員 柳井委員、草間委員、高橋（か）委員、大学委員、杉山委員、土井委員、大江委員、永野委員、
郷家委員、高橋（栄）委員、木島委員、大山委員、阿部委員、横内委員
欠席委員 4名

塩 竈 市 副市長、総務部長、政策調整監

事 務 局 総務部政策課

第2回 塩竈市長期総合計画審議会の概要

1. 開会

2. 会長挨拶

（内容）

- ・本日は年度末のお忙しい中、第2回塩竈市長期総合計画審議会にご出席いただき、心から感謝申し上げます。
- ・現在、大きな変化が起きており、本日は、外部環境の変化について、主に2点お話しする。
- ・まず1点目は「人口減少」について。先日、他自治体でもデータが出てきたが、予想以上のスピードで人口が減少しており、これは後ほど審議会でも議題に挙げられる。
しかしながら、気をつけてもらいたいのは、人口減少イコール地域の衰退というわけではないという点にぜひ着目いただきたい。良好なコミュニティをどう創造するかという視点を持ち続けることで、人口減少下でも豊かな暮らしを実現することができる。
- ・2点目は「イラン情勢」について。歴史を振り返ると、石油危機が過去に2度発生した際、8か月から1年の間、直接的な影響が見られた。その後は、技術革新により環境対策が進んだことや、賃金の上昇停止に伴う中小企業への影響が問題として顕在化した。
今後、インフレーションやスタグフレーションが起きる可能性もある。私たちが地域経済の未来を考える際には、こうした外部環境の変化にどう対応するのか、そして塩竈市の立ち位置や既存産業の保護をどのように進めるべきか、といった視点が重要となる。
- ・本日は、人口減少の問題と新しい環境変化の中で、私たちがどのように行動すべきかを皆さんとともに考え、後期基本計画に対して、皆様から忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい。

3. 議事

（1）審議会の振り返り

事務局より資料1に基づいて説明、質疑応答なし

（2）第6次長期総合計画前期基本計画総括

事務局より資料2、別冊資料に基づいて説明後、質疑応答、意見交換

（内容）

- 塩竈市には子どもが外で遊べる場所や室内で遊べる施設が少ないと感じる。最近、スーパーと併設した室内の遊び場に多くの人々が訪れており、駐車場が満車になっていた。このことから、室内で遊べる場所の必要性を改めて感じている。塩竈市内でももっと増えると良い。
- 仕事柄、高齢者に接する機会が多く、高齢者の悩みが多岐にわたる中で、医療と介護の分野での連携強化がさらに重要と感じている。

○医療については現状、供給体制は満たしていると考えている。一方で、介護については先ほどのとおり、地域での連携をさらに強化していく必要性を感じており、今後重点を置くべきである。

また、市立病院については、老朽化が進んでおり、建て替えの必要性を感じている。

→市立病院に限らず、市内の公共施設の多くが老朽化している。現在、優先度を市役所内で検討し、市民の皆様説明しながら進めており、大きな課題として挙げられるのは、ごみ処理施設、庁舎、市立病院、そして学校となっている。この中で、生活インフラという観点からごみ処理施設を第一優先として建て替え計画を立てたが、事業費の高騰などから、一市三町が運営しているごみ処理組合への参加という方向に舵を切り、現在調整を進めており、そのことを踏まえて、庁舎の建て替え計画は凍結されている状況となっている。(事務局)

→市立病院も市民にとって重要な施設であり、本来であれば庁舎と同時に着手することを検討したが、財政的な厳しさから延命化という形で運営を続けている。同病院は建設から約60年が経過しており、今後さらに長寿命化を進める予定となっている。今年度、国が医療圏単位での病院連携のためのガイドラインを策定し、それを受けて県が具体的な方向性を検討する予定となっている。市としては現時点では延命化を進めながら、これらの議論の内容を見極め、建替えも含めた検討を進めていきたいと考えている。(事務局)

○塩竈市の土地価格が公表された。周辺の利府、多賀城と比べて低いとの結果を見た。市民として固定資産税が低い点はメリットを感じるが、まちの魅力や人気が低いと安価となったとなると気になる。また、小中学校の生徒数が大幅に減少していると聞き、寂しさを感じる。

○観光業についてコロナ禍以降、観光バスで訪れる客層が減少し、現在も回復していない。逆に個人旅行は増加しており、客層は若年化している。そのため、従来の観光客のニーズと供給とのギャップが生じている。たとえば、神社を訪れる観光客が楽しめるスポットの充実など、観光のあり方を見直す必要性を感じる。

○観光会社との意見交換で、昔はバスを利用した団体旅行が主流であったが、現在は個人が自家用車で目的地に直接行き、目的を達成し、帰る形が定着していると聞いている。この観光の変化に対応する必要がある。

○週末に子どもたちが遊ぶ公園や室内遊具のある空間づくりや環境づくりが子育て世代に選ばれる将来につながっていくと感じている。

○人口減少がすべて悪いわけではなく、ポジティブに捉えることも可能で、たとえば、土地のコンバージョンといった戦略を講じることで、両親の土地を次世代が工夫し活用すると、広い土地を共有化して豊かな生活を実現することができる。

○子育てにはお金がかかるイメージがあり、子どもを育てる費用が不透明で不安を感じるとよく話をする。地方で子育てにかかる金額の情報が少なく、広く周知される仕組みを検討すべきだと感じる。

また、市民団体の担い手不足についても、参加する費用や団体の情報、活動内容がよく分からない場合があり、同じく情報発信を強化してはどうか。

市内の寿司店が行列のため、駐車場で長時間待っているお客さんを多く見る。例えば、待ち時間に市内観光を楽しんでもらえる仕組みがあると、観光の活性化につながるのではないかと考える。

○昭和の時代にはコミュニティが強く機能しており、塩竈市は親戚や近隣から魚を分けてもらうなど出費を抑え、他にお金を使える余裕があった。また、地域で子育てを支える仕組みがあると、都市部のように保育費を払わず、安心して子育てが可能となる。このようにコミュニティと仕組み作りを再び考える時期が来ている。

- 北浜緑地公園へ観光客を呼び込み、収益を生むようなイベントなどは実施しているのか。
→例年、4月に市民まつり、7月にはみなと祭りの際に開放している。また、みなと祭りには花火観覧の桟敷席を整備している。通年のイベントは開催していない状況ではあるが、主要な季節行事を中心に活用している。(事務局)
→イベントをもう少し増やし、多くの人が注目する魅力的なものを提案、開催できればよいと思う。
- 福岡に社用で出張してきたが、再開発が盛んで、非常に投資が活発な地域となっていた。地方の主要都市として、札幌、仙台、広島、福岡が挙げられるが、その中でも福岡が頭一つ抜き出ている。特に目覚ましいのは街の開発であり、仙台では「せんだい都心再構築プロジェクト」の一環で4件の再開発が進められているが、一方、福岡では「天神ビッグバン」で70件、「博多コネクティッド」で120件もの再開発が行われている。街の活気を見ると、人が集まる街には活力があることを改めて感じている。
子どもの施設に関しては、山形県長井市では、「くるんと」という駅・市役所・屋内施設が一体となった施設がある。この施設は市民だけでなく県外の方も無料で利用可能で、全国からの視察が寄せられている。参考にしてもよいのではないかな。
- 学校については、生徒数の減少も実感しており、老朽化する施設やそれに伴う設備維持費との関係もあり、今後、学校再編は避けては通れない課題であると考えます。
先程お話のあった市立病院建替の件も課題で、医療圏単位での議論と共に、塩竈市では公設病院と民間医療機関の連携を強化することが重要だと感じている。
- 土地価格の話題にも触れたが、多賀城や利府では地価が下がった部分はない一方で、塩竈市では地域によって地価が上下している。地価の下落は税収の減少につながり、魅力が低下するという問題があるが、土地が安い分、定住人口を呼び込む魅力にもなり得る。
- 観光分野について、昨年10月に松島町の瑞巖寺で1か月間のライトアップイベントが開催され、若い女性に人気を博していた。インスタグラムを通じて広がった評判がその大きな要因だったと聞いている。
塩竈市でも「月灯りと花灯り」の期間を長く開催することで、交流人口が増えてくるのではないかと考える。観光が大きく変化する現在、この交流人口を増やす取り組みを進めないと地域経済に差が生じる要因になると考える。
- 塩竈市のふるさと納税額が毎年更新され、令和6年度には過去最高の総額10億円、寄付件数8万8000件を達成したことは非常に喜ばしい。この素晴らしい成果をもっと広くアピールする場を作るべきだと考える。
- 地域おこし協力隊について、浦戸では牡蠣と海苔の分野で協力をいただいている。卒業後の住居問題が課題となっている。海苔の分野においては数年間、自宅を探しているものの、島内で適切な住居が見つからず、本土から通う形となっている。その結果、島での行事にも参加が難しくなっており、同様の問題が他の協力隊にも起きる可能性がある。
- 牡蠣の分野については9月末から牡蠣剥きの作業が始まるが、最低人数すら高齢化によって人数確保が困難になっている状況で、この問題の解決も必要だと感じている。
- 島内の方にこの会議に出席するにあたり意見を求めたところ、塩竈市内における子どもの遊び場が不足しているという意見があった。中の島公園などでは遊具不足が指摘され、子どもたちが自由に遊べない

状況が課題であると提言された。

→現在、浦戸には地域おこし協力隊の隊員が3名在籍している。ご指摘の通り、卒隊後の住まいの確保が課題となっており、そのため、災害公営住宅への入居について調整進めているほか、空き家の活用を並行して行い、できるだけ島内で居住できる環境を整備していく方針で取り組んでいる。

また、郵便局向かいの中の島公園の遊具については、バスケットボールのリングを設置しており、親子連れで遊ぶ姿などが見られるようになってきた。市内には、伊保石公園にフォレストアドベンチャーがオープンし、料金はかかるが市民割や無料招待などもあり、そういった施設とともに、市内の回遊性を高める取り組みも現在行っている。(事務局)

○地域の町内会について、アンケート調査を地区連絡協議会の会員を対象に行った。22町内会中加入世帯が50世帯以下の町内会が17もあり、町内会長が60～80代の方となっている町内会が18となっている。小規模、かつ高齢化が進んでいる現状が見られ、若い世代の参加が少ないことや、世帯数減少に伴う収入低下により、行事ができないという問題が浮上している。一部の町内会では合併の話も出ているが、考え方や状況を統一することは容易ではなく、すぐに合併に至るものではない。相談窓口の設置を市役所内に希望する声もあった。

○町内会の再定義は非常に重要な課題で、震災時など地域の単位がないと復興活動が進まないことが明らかで、高齢化が進む中でも活動しやすい仕組みを整備し、地域の活力を維持するため検討を進めるべきである。

○まちづくりの目標について3点意見がある。

まず、分野1「子どもたちの笑い声があるまち」について、日中で登下校時を除き、子どもの声をほとんど聞かなくなった。習い事や学童があることは承知しているが、力を入れていただきたい。

また、分野3「快適に住み続けられるまち」については、空き家の利活用件数が少ないとある。ご報告ではあるが、町内会地域の空き家の一部をリフォームし民泊として活用する事例があった。

最後に、分野5「何度でも訪れたいまち」についても、駅前の印象を改善する必要があると思う。中心部には彩りが必要であり、駅や中心部の景観を見直し、訪れる人が良い印象を持つ環境を整えてほしい。

(3) 将来人口推計

事務局より資料3に基づいて説明後、質疑応答、意見交換

(内容)

○年齢の捉え方を現代の状況に合わせて再定義する必要がある。かつては60歳というと「高齢者」の印象が強かったものの、現在では70代でもジムに通い、さまざまな場で活躍する人が増えている。特に町内会活動において、高齢者が参加しやすい仕組みを整えることがカギになる。たとえば、活躍の場を作り、活動に対して収入につながる仕組みを構築することで、高齢者が積極的に社会参画できる環境を醸成できるのではないかと。

○塩竈市の現状においても、高齢者の多さを課題にするのではなく、その健康寿命の長さを地域の強みとして捉えることが重要であり、地域社会に活力を生むためにも、彼らがいきいきと地域活動に参加できる仕組みを構築する必要がある。こうした活動を通じて、若い世代が地域に関心を持ち、互いに良い影響を与え合える可能性が高まるといえる。こうした取り組みによって、持続可能な地域社会を実現する一歩となるのではないかと。

○最近、松島から引っ越して市内に居を構えることになった方がおり、その理由を聞いて改めて塩竈市の

魅力を再発見した。たとえば、「魚が美味しく、飲食店の質も高い」、「学校まで少し距離があるものの徒歩圏内であり、子どもの成長にはそれがちょうど良い」、「他の地域よりも広い住まいを手ごろな条件で選べた」といった点で、さらに、子育て世代同士は SNS を活用した情報交換を行っていることや、行政のホームページが充実していることなども大きな利点として挙げられた。このような状況を見ると、若い世代が塩竈市を「魅力がない」と思っているわけではないと感じる。

○塩竈市に住んでいると気づきにくいですが、塩竈で食べる魚の質は他と全く違う。この特徴を活かして、学校給食において魚を用いた食育を積極的に推進してはどうか。例えば、魚に含まれる DHA など栄養素を学ぶためのカリキュラムを導入すれば、子育て世代にとって移住のきっかけにもなる。また、「ミシュランガイド」のビブグルマン掲載店を見た際、塩竈市は人口対比で、宮城県内で最も高いという点も注目してほしい。これをうまく活用していけば、他の地域との差別化が図れる。こういった PR を観光協会でも行ない、単発イベントの開催だけでなく、塩竈市の魅力を積極的に宣伝していただくことで、さらなる地域の良さを伝える機会を増やして行けるのではないかと感じる。

○「楽しいしおがま」の実現に向けて、楽しい町内会運営の推進を通じて、親世代が住んでいた地域に戻ってくる流れを作れるのではないかと考えている。私の町内会は、210 世帯を 13 班に分ける構成になっており、毎月月初めに全体会議を開催している。参加するのは役員 24 名と班長 13 名の計 37 名で、町内会設立以来一度も休まずに開催し、現在まで 102 回目を迎えた。会議では議事に加え、毎回スローガンを盛り込むなど工夫をしながら地域活動を進めている。また、議事録は各世帯に配布し、地域の情報を共有している。さらに、定期的にイベントを開催しており、4 月、8 月、10 月、2 月の年間 4 回、合計約 400 名の参加者が集まる。これらの活動を通じて、将来子どもたちが戻ってくるような町内会を目指している。古い考えかもしれないが、町内会が活性化すれば塩竈市全体も活気づくと考えて活動が続けている。

○私も町内会に所属し、防災に関わる活動を担当しているが、防災訓練をする中で町内会の高齢化を強く感じている。いざというとき、緊急時に集まれる場所としての避難所や地域のコミュニティとして機能する公民館の確保は重要と感じており、日頃からこうした場所を活用し、地域のつながりを深めることで、緊急時にチームワークを発揮し、迅速な対応が可能となると考えている。

○鹿児島県の甕島という小さな島では、古民家を改装してユニークな取り組みを行っている。午前中はパン屋として営業し、午後にはヨガ教室や子どもたちへの絵本の読み聞かせを実施しており、普段は公民館のように人々が集まれる機能を備えている。住民は朝にパンを買い込み、その場で一日中おしゃべりを楽しむ。何かあればそこに集まって話をするという流れが自然に生まれている。「ここにあるので来てください」という形式的な呼びかけではなく、自然と人が集まる仕組みを作ることが重要だと思う。こうした仕組みや動機付けを考えることは、特に若い世代に期待される役割ではないか。

(4) 後期基本計画に向けた分野ごとの視点

事務局より資料 4、付属資料 1、付属資料 2 に基づいて説明後、質疑応答、意見交換
(内容)

○二つの論点を大切にしてほしい。

まず一つ目の論点は、皆さんがすでに理解している内容、およびその方向性が適切であるか確認してほしい。特にご自身の専門分野を中心にご意見をいただきたい。

二つ目の論点は、今回の議論には横断的な内容が含まれている点で、例えば、先ほどの議論でも出た駅前に塩竈らしさがないことや、浦戸地区の移住・定住促進、若者とのマッチングなど、複数の部門にま

たがる課題が議題に含まれる。このような横断的な問題について、議論の中で不足している視点があれば、ぜひ皆さんで拾い上げ、それを補足していく形で進めたい。

○本日、会長の挨拶にもあったインフレとスタグフレーションに関連する内容ですが、資料3ページの「分野2(3)第一節『物価高騰に伴う生活困窮者への対応』」という表現は、「物価高に伴う生活困窮者への対応」の方が伝わりやすく、簡潔でわかりやすい。また、2ページの「分野1子ども分野」にも物価高に関する記述を盛り込んでいただきたい。

○3ページ「分野2(2)第2節『生涯現役』」の表現を追記してほしい。高萩市では、20年以上前から「生涯現役」を掲げ、条例や都市宣言、政策白書を実施してきた実績がある。この取組は他の自治体にも波及しており、現在では生涯現役を推進する課も設置されている。具体的にはボランティア活動、生涯学習、シルバー人材センターなどの切り口で社会福祉協議会に窓口を設けている。同様に、第2節の「生活習慣病予防に対する健(検)診受診の強化」に関しては、「生活習慣病予防に対する健(検)診受診率の向上」に修正することで説得力が生まれる。また、この目標に数値目標を設定するなど具体性を持たせていただきたい。なお、受診率向上のためにはインセンティブが有効と考える。例えば、過去に政府の取り組みでアンケートに回答すると3,000円分のギフトカードを提供した例がある。このような仕組みによって健診率が上がり、早期発見による本人、行政、社会の負担軽減が期待できる。こうした打ち出し方も検討いただきたい。

○5ページ「分野3(3)第2節『新規創業者の支援』」については、「新規創業者の支援強化」とするべきで、同じく、第3節「マリゲート塩釜のブランド価値の向上」に関しては、「マリゲート塩釜のブランド価値の向上とプロモーション強化」と表記してほしい。ブランド価値を向上させても、その後のプロモーションなしでは十分な効果が得られない。プロモーションの推進をセットで行うべきだと考える。また、9ページの浦戸地区の課題だが、医療が行き届いていない点が懸念されている。医療が不足している地域に対してはIT技術を活用した遠隔診療を検討するべきで、特に東京などで普及しているオンライン診療は、地方でもメンタルヘルスケアや軽度の疾患対応に活用できる。オンライン診療は場所を選ばず、地域課題を解決する有望な手段だと考える。

○質問ですが、プロスポーツチームとはどの団体と包括連携協定を結んでいるのか。

→現在県内のプロスポーツチーム4団体と締結しており、具体的には野球、男子サッカー、女子サッカー、バスケットボールとなっている。(事務局)

→この連携はぜひ積極的に活かしていただきたい。このような団体との協力を最大化するためには、1協定あたり数十万円の予算付けを行い、その枠内で事業を実施する仕組みが考えられる。また、行政との協力が進むことで、学校教育の一環として子どもたちへのコーチングなどプロスポーツチームに協力いただくなど役立つ場面も増え、質の高い協定に進化させることで地域活性化につながると期待している。

○私は「分野4」の部門について触れたい。現在、地元塩竈の水産業が抱えている課題をお伝えする。

具体的には、「三陸塩竈ひがしもの」が塩竈のブランドマグロとして知られているが、その出荷量はマグロ全体の10%程度と非常に少なく、必要性があっても供給量が足りていない状況である。また、国内全体で水揚げされるマグロの量は減少傾向にあり、かつて塩竈市はメバチマグロの水揚げが多い市場だったが、最近、ホンマグロの水揚げが高まっているものの、大部分が豊洲市場へ流れてしまっており、地元事業者が買いづらい現状がある。

○塩竈市の市場ではマグロ以外の魚が水揚げされることが少ないため、仲卸市場で取り扱う商品は北海道、

気仙沼、石巻など他の港に頼らざるを得ない状況にあるが、魚種を幅広く揃えるためには、買い支える必要があり、その仕組みは不十分となっている。地元の水産業を維持するためには、現在の仕組みを変え、マグロ 1 本に依存した形から脱却することが求められており、塩竈の港で水揚げする魚種をどう増やすかが、今後大きな課題になる。

→ホンマグロについては現在、業界と相談しており、ブランド化の取り組みを来年度から進めたいと考えている。ご指摘いただいた魚種の扱いについては、塩竈はほとんどが生鮮の生マグロを扱っている。かつてのように地元で水揚げされるいわゆる前浜ものを塩竈で揃えるには、委員ご指摘のとおり様々な課題がある。欲しい魚種だけを選び水揚げするのではなく、一艘全体を買い上げる仕組みが必要だが、現状として塩竈市に船籍を持つ船は石巻に向かっている。これは石巻が水揚げした魚種を全て買い取るため安心して水揚げができることが要因となっている。塩竈に同様の仕組みを導入すると、買受人（仲卸業者）が全て買い受ける必要があり、そうしたときに、買受人が購入できない場合は卸会社がリスクを負うことになるため、この点の調整が課題となっている。現在、卸会社を中心に議論を始めたばかりで、時間がかかるが、今後も地域ニーズを踏まえながら検討を進めていく。（事務局）

○分野 1 の第 3 節や分野 6 の第 3 節の地域活動について、高齢化が進む中で、ボランティアへの依存は不安な状況である。例えば、65 歳で定年を迎えた方をお願いする際、活動の内容や仕組みを工夫し、簡単な業務として報酬を支払う形も検討するべきだと考える。そうした新しい視点を取り入れて、人材確保を進めていただければと思う。

→地域の子どもたちを見守るボランティアの皆様については、高齢化により夏場や冬場の活動がづらいというお声をいただいている。現段階では、ボランティアの方々へのインセンティブとして、先ほどご説明した協定先から提供されたスポーツ観戦などを活用している。しかし、ボランティアの方々への依存は今後困難となる可能性が高く、新しいあり方が求められていると認識している。この視点を踏まえながら、より持続可能な活動と人材確保の仕組みを検討してまいりたい。

○分野 3 の空き家の方針整理について、昨年 4 月から建築住宅に関する法律が改正されており、それに伴い建築費が大幅に上昇していることで、新築住宅を建てる方にとって非常に厳しい状況になっている。一方、良質な空き家の需要が高まり、いわゆる「奪い合い」が起こる可能性がある。良質な空き家の条件として重要なのは道路環境であり、塩竈市内の道路状況を見ると、崖地や狭隘道路が多く、こうした問題が障害となっている。この点について、塩竈市として具体的な対応策を考えていただけるとありがたい。

○子育て支援について、学生と話をしていると、特に「子育てコスト」の不安感が出産を抑制している要因であると感じている。たとえば、私自身 2 人の娘を育てているが、彼女たちから将来私と同様に子どもを育てるのは難しいという話を聞く。その理由は、子育てにかかる費用への不安だと言う。これは塩竈市だけの問題ではなく、日本全体の問題であるが、市としてできる取り組みもある。

○子育てに関する提案としては子育てひろばの推進とスペース確保が挙げられる。例えば、分野 1 第 3 節の中で、子どもの居場所、遊び場の利用促進が挙げられているが、具体的には商業施設などを活用した子どもたちが自由に遊べる場所の確保を検討することが良いのではないかと考える。商業施設は客数・客単価が減少していく可能性があり、その空いたスペースを、雨天や荒天時に子どもが遊べる無料の場所として提供すると Win-Win の関係が築ける。そこに地域振興券などを組み合わせることで、地域経済にも一定の効果が期待できると考える。

○学校再編の議論が進むにあたり、教育施設や学校施設の再利用を考えていただきたい。高齢化が進むと学校の再利用も重要な視点になり、空いた学校施設を子育て世帯や若い家族が利用できる機会の増加や

公共施設を有効活用する仕組みづくりなどを検討する必要がある。

- 子育て支援とは直接関係しないが、ペット関連施設の増加も地域活性化の視点で、県外からも人が訪れる人気のある施設と連携し、他地域からの集客を見込み、観光に結び付けることも必要な視点だと考える。
- テレビ番組で紹介されたが、鹿島神宮と香取神宮の式年大祭を記念した合体お守り（双宮守）という事例で、両神宮のそれぞれの御守りを受け、一つに合わせることができるといったものがあった。うまいところは、ネットの販売やっておらず、絶対現地に来なくてはならない仕組みであり、それでも即完売した。これを東北版として、鹽竈神社と宮城県内の名所、例えば大崎八幡宮と連携し、スタンプラリーなどのイベントも併せて実施することで、多世代が集まり地域活性化につながるのではないかと。このような仕組みを通じて、地域にお金落ちる仕掛けを作ることが十分可能で、実際に鹿島神宮と香取神宮のスタンプラリーで成功事例を見てきたが、このような試みは宮城でも十分に活用できるのではないかと。
- 少子化や石油ショックの影響など社会変化を考えると、今後、貧困問題への対応が重要となる。例えば子ども食堂だけでなく、大人の貧困層への対応と拡充や障害を持つ方への支援を含め、長期的な視点を持った施策が求められる。これからの塩竈市にとって、こうした社会的課題に先回りして対策を講じることが重要である。
- 様々な委員会に出席する中で感じることは、本会議は意見が活発に出ていると感じた。やはり塩竈市はいいものを持っていると感じる。事務的な対応も優れており、審議会で出た意見をきちんと施策に落とし込んでいる点は素晴らしいと思う。また、ごみ処理の事務組合への参加という判断も賢明である。他市の事例と比較しても、自前の施設はコストがかかることが多く、民間委託による処理は長期的に費用がかさむため、広域連携の判断は正解だと思う。こうした情報は市民にも広く伝える必要がある。

4. 閉会